

外出時、トイレで妻の介助をしたら不審者と間違われた——。そんな男性介護者の声を受け、静岡県が作成した「介護マーク」が全国に広がっている。男性介護者に首から提げてもらい、あらぬ誤解を避けようという知恵だ。

マークは名刺よりひと回り大きめ。「介護中」の文字を人の手が支える図柄で、「介」の字もよく見ると人が人を支えている。「認知症の人と家族の会」（京都市）が約5千枚を配り、厚生労働省も12月にマークの電子データを都道府県に送った。当事者団体や自治体の窓口を通して普及を図る。

